

◇新しいギャラリートークが増えました◇

当館では一日に数回、職員が楽器を紹介する「ギャラリートーク」というイベントを開催しています。1回10分程度のもので、職員が各自楽器を選び調べたことから「この楽器のここが凄い」「おもしろいな」と感じたことをお客様にお伝えしています。楽器によっては実演もあります。

今年度は新たに、ヨーロッパの楽器からサクバットとスピネット、アメリカの楽器からピリンバウのギャラリートークが加わりました。これからも種類は増えていきますし、また、内容も変わっていきます。是非、新しい発見をしに、何度でも足をお運びください。



博物館日誌

- 8/4 (土) 館長対談～この人に聴く～「ガーン!と仰天、浜松まつりのラッパ」 14:00 天空ホール ゲスト:奥中康人 入場者:120人
- 8/5 (日) 城北図書館「音楽のまち講座」楽器博物館連携企画 『「スーホの白い馬」の馬頭琴ってどんな楽器?』 10:00 城北図書館講座室 講師:福井則之 受講者:小学生39人
- 8/5 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア) 参加者:48人
- 8/8 (水) 館長対談～この人に聴く～「バリから学ぶ芸能の未来」 14:00 天空ホール ゲスト:梅田英春 入場者:35人
- 8/10 (金) ～8/14(火) インターンシップ受入 3人(大学生)
- 8/11 (土) 館長対談～この人に聴く～「人生はテルミンとともに」 14:00 天空ホール ゲスト:竹内正実 入場者:143人
- 8/12 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤) 参加者:99人
- 8/13 (月) ～16(木) 教員10年経歴者研修(中学校教諭1人、高等学校教諭1人)
- 8/19 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤) 参加者:52人
- 8/20 (月) ミュージアムサロン「リトアニアの女声合唱」13:30 天空ホール 出演:女声合唱団「ベニ・ガウデーレ」 入場者:139人
- 8/21 (火) ～8/25(土) 学芸員実習受入 4人(大学生2人、大学院生2人)
- 8/21 (火) ミュージアムサロン「アングルン」14:00 天空ホール 出演:当館職員 入場者:73人
- 8/24 (金) 学芸員実習生によるミュージアムサロン「アングルン」 14:00、15:30 天空ホール 出演:学芸員実習生 入場者:87人
- 8/26 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤) 参加者:22人
- 8/26 (日) 館長対談～この人に聴く～「ムビラに魅せられて」 14:00 天空ホール ゲスト:スミ・マズィタテグル 入場者:31人
- 8/26 (日) 館長対談～この人に聴く～「アフリカのムビラ」15:30 出演:ガリカイ・ティリコティ、スミ・マズィタテグル 入場者:75人
- 9/2 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(鍵盤) 参加者:55人
- 9/6 (木) ～14(金) 移動楽器博物館 浜松市立上島小学校
- 9/9 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア) 参加者:55人
- 9/16 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(鍵盤) 参加者:71人
- 9/17 (月) 楽器づくりワークショップ「とり笛をつくらう!」 10:30、11:30 地下展示室 指導:ポランティア 参加者:28人
- 9/23 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(ヨーロッパ) 参加者:65人
- 9/23 (日) 講座・楽器の中の聖と俗(全2回) 第1回「奥美濃に残る武将の舞い 喜喜踊り/谷汲踊り」 13:30～15:00 研修交流センター 講師:西岡信雄 受講者:19人
- 9/24 (月) ミニ展示「沖縄の心の音～三線～」終了
- 9/30 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(ヨーロッパ) 参加者:50人
- 10/1 (月) ～10/5(金) 移動楽器博物館 浜松市立中部小学校
- 10/7 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア) 参加者:50人
- 10/8 (月) 楽器づくりワークショップ「とり笛をつくらう!」 10:30、11:30 地下展示室 指導:ポランティア 参加者:12人
- 10/13 (土) ミュージアムサロン「南米の楽器アルパ」14:00、15:30 天空ホール 出演:長島忠之(アルパ)、パブロ・テロネス(ギター&チャランゴ)、田中淳子(パンフルート)、杉山由利子(電子ピアノ)、桜井壮憲(ギター) 入場者:114人
- 10/14 (日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤) 参加者:42人
- 10/14 (日) ふじのくに子ども芸術大学 「インドネシアの伝統芸能体験～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～」 A.影絵人形作り 10:00～12:30(小学1～6年生対象) B.ガムラン演奏 13:30～14:30(小学3～6年生対象) C.宮廷舞踊体験 15:00～16:30(小学3～6年生対象) 研修交流センター 講師:ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実、西岡美緒 参加者:のべ33人
- 10/17 (水) ～18(木) 職場体験 浜松市立天竜中学校 5人
- 10/20 (土) 楽器博物館友の会コンサート 「19世紀のバリトン・サクソフォーン」18:15 天空ホール 出演:飯守伸二(バリトン・サクソフォーン)、寄藤佳織(ピアノ) 入場者:80人
- 10/21 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤) 参加者:34人
- 10/21 (日) 音楽の広場「フルートとピアノ」14:00、15:30 展示室 出演:向田成人(ピアノ)、小池真梨(フルート) 入場者:105人

- 10/28 (日) 城北図書館連携企画講座「歴史を飾った素敵なピアノたち」 10:00 城北図書館会議室 講師:嶋和彦(当館館長) 受講者:20人
- 10/28 (日) 親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を作ろう!」 13:30～16:30 研修交流センター 講師:安岡真理(静岡県美術館学芸員)、太田紗世(同) 参加者:11組
- 11/2 (金) 職場体験 浜松市立入野中学校 4人
- 11/4 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(ヨーロッパ)、14:00(アジア) 参加者:51人
- 11/7 (水) 職場体験 浜松市立舞阪中学校 3人
- 11/8 (木) ～19(金) 職場体験 浜松市立南部中学校 5人
- 11/11 (日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(ヨーロッパ) 参加者:51人
- 11/15 (木) 明治150年記念特別展 「教室で出逢った唱歌と童謡～音楽教科書が語る日本のあゆみ～」開催 楽器博物館展示室
- 11/15 (木) ～16(金) 職場体験 浜松市立曳馬中学校 5人
- 11/17 (土) 館長対談～この人に聴く～「人をつなぐデザインの力」 14:00～15:00 天空ホール ゲスト:峯郁郎(静岡文化芸術大学 芸術文化学科学教授、文化・芸術研究センター長) 入場者:21人

♪ギャラリートーク(職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで10分間ほど解説) 8月 計114回 参加者:2670人 9月 計102回 参加者:1242人 10月 計101回 参加者:1261人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説 ※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- レクチャーコンサート
- 1/23 (水)「田園の愉しみ～18世紀フランス宮廷のバグパイプ“ミュゼット”」 19:00 天空ホール 出演:上尾直毅(ミュゼット)ほか
- 3/17 (日)「涙のきらめき～17世紀ザルトブルク・祈りの宮廷音楽～」 18:15 天空ホール 出演:アンドレア・インギッシャーノ(ホルネット)、杉村智大(ナチュラルトランペット)、宮下宣子(サクバット)、古楽金管アンサンブル“アンジェリコ”ほか
- 講座
- 12/8 (土) 特別展開連講座「音楽を超えて～文部省唱歌のめざしたもの～」 18:30 天空ホール 講師:澤崎真彦(東京学芸大学名誉教授) 演奏:コール萩 指揮:徳田陽子
- 3/2 (土) 講座・楽器の中の聖と俗(全2回) 第2回「琉球王国の新春 朝拝御規式(ちょうはいおきしき)」 13:30～15:00 研修交流センター 講師:西岡信雄
- ミニコンサート/音楽の広場 天空ホール
- 11/18 (日) ミュージアムサロン 「中央アジアの音楽と楽器～テュルク世界の大きい遺産～テュルクソイ結成25周年記念」 14:00～15:00 天空ホール 出演:中央アジア各国からの音楽家数名
- 12/2 (日) 「アンサンブル・ムジーク女性合唱団 ミニコンサート」 13:00～13:30/15:00～15:30 出演:アンサンブル・ムジーク女性合唱団、仁科岡彦(指揮)、稲垣英子(ピアノ)
- 12/9 (日) 「クリスマスコンサート」 14:00～14:30/15:00～15:30 出演:ライオネット児童合唱団、初村則子(指揮)、稲垣英子(ピアノ)、当館職員数名
- 12/23 (日) 「クリスマスコンサート」 14:00～14:30/15:30～16:00 出演:小池真梨(フルート)、中山優希(ファゴット)、加藤雄樹(パーカッション)、中村節(作曲、ピアノ)、野口夏葉(ピアノ、鍵盤ハーモニカ/当館職員)

浜松市楽器博物館だより

平成30年11月17日発行 No.125 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
URL <http://www.gakkihaku.jp/>

Hamamatsu
Museum of
Musical
Instruments

浜松市

楽器 博物館

No.125
2018.11.17

だより



今日、日本の音楽教育とその成果は高く評価されていますが、その礎となっているのは、明治維新以来の音楽教育です。しかし、戦前の音楽教育は、今日のような器楽や鑑賞等をも含んだ総合的なものではなく、歌唱中心の“唱歌”教育でした。

日本の近代教育制度の歩みは、明治5年8月の「学制」発布によりその第一歩を踏み出したといわれています。この時の“音楽科”は、小学校の教科目として「読本」、「修身」、「算術」、「体術」等と並んで「唱歌」の名称で挙げられていました。江戸時代までの“寺子屋”や“藩校”、“家塾”の教育方法、カリキュラムでは、音楽は子どもや女性の嗜み、特定の人々の楽しみごとというくらいで、教科として柱に据えるようなことは考えられないことでした。ただ当時は、音楽を教える教師も教育方法も教材や楽曲も教具も、すべて一から手作りで出発しなければいけない状況だったため、“当分のヲケケ”の但し書きが付き、しばらく実施されませんでした。

明治12年、文部省内に設置された「音楽取調掛」によって音楽教育は実質的な歩みを始め、音楽家の養成、音楽書の発行、教師養成と唱歌教材の編集・出版、楽器製作などの事業を進めていきました。国楽の創生や道徳思想育成を目的に生み出された唱歌は、つくられた時代の文化・社会・政治・教育など、様々な世情や思想を反映し、

明治150年記念特別展

教室で出逢った唱歌と童謡

～音楽教科書が語る日本の歩み～

平成31年1月6日(日)まで開催



明治150年記念特別展 開演講演会 浜松市楽器博物館

「音楽を超えて～文部省唱歌のめざしたもの～」

歴史、地理、科学、選考...そして人々の心の軌跡。明治維新以降の日本は急速な近代化を遂げた。その中で音楽教育も大きく変革を遂げた。『地理教育鉄道唱歌』に代表される教科の内容を歌にして覚える唱歌、自由主義の広がりから唱歌に強い影響を与えた童謡などが生み出されてきました。

この特別展では、明治150年を記念し、日本の唱歌や童謡の歴史を教科書で振り返ります。12月8日(土)には講座とコンサート「音楽を超えて～文部省唱歌のめざしたもの～」も開催します。ご覧になった方それぞれの懐かしい教科書や大事な歌を発見できるのではないのでしょうか。唱歌や童謡を大切な文化遺産として大事にしていきたいと思います。

明治150年記念特別展「教室で出逢った唱歌と童謡～音楽教科書が語る日本の歩み～」
会期:平成30年11月15日(木)～平成31年1月6日(日)
会場:浜松市楽器博物館展示室
協力:東京学芸大学附属図書館、NPO法人浜松生涯学習音楽協議会
監修:澤崎真彦(東京学芸大学名誉教授)

特別展開連イベント 講座とコンサート
「音楽を超えて～文部省唱歌のめざしたもの～」
日時:平成30年12月8日(土)18:30～
会場:楽器博物館展示室内
講師:澤崎真彦(東京学芸大学名誉教授)
演奏:コール萩 指揮:徳田陽子
聴講料:500円(要申込/100人先着順)
対象:高校生以上

浜松市楽器博物館 〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3丁目9番1号 <http://www.gakkihaku.jp>

ふじのくに子ども芸術大学 インドネシアの伝統芸能体験～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～



10月14日(日)は音楽工房ホールにて3名の講師をお招きし「インドネシアの伝統芸能体験～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～」のワークショップをコース別に分けて開催しました。

影絵コースでは、前半は影絵人形芝居「ワヤン・クリ」で使用される人形を、ボール紙を切り抜き、竹の持ち手を付けて作りました。人形を切り抜く時は、皆とても集中して作業をしていました。後半は講師のローフィット・イブラヒムさんと佐々木宏実さんのガムラン伴奏と歌物語に合わせて、実際にできあがった人形で影絵芝居を披露しました。

切り抜いた人形に色付けをする時間には、思い思いの色合いやデザインになるようマジックで塗ったり、人形にカラーフィルムを貼ったりと自由な発想で、人形がカラフルに仕上がるよう工夫していました。また、スクリーンに映して何度も配色を確認する子どももいて、それぞれがこだわり抜いた自分だけの人形を作り上げていました。

影絵人形劇を披露する時には2グループに分かれ、他のグループや保護者の前で伴奏に合わせて元気に人形を操りました。個性あふれる素敵な人形たちがスクリーンに躍動し、見守る保護者の方も参加した子ども達も笑顔いっぱいのお披露目の時間となりました。



ガムラン演奏体験では、サロンやスレンテム、ゴングやボナンなど約10種類の楽器から興味のある楽器を選んで体験しました。楽器選びの時は初めて見聞きする名前の楽器を前に緊張している様子でしたが、ゆっくりとした速さからの練習を重ねていくうちにだんだんと慣れて、最後には観覧していた保護者の方たちの手拍子や歌声に合わせていきいきと演奏をしていました。

ジャワ島の宮廷に伝わる宮廷舞踊体験では、講師の西岡美緒さんからこの日踊るものの一つがお姫様の踊りだと聞くと、子ども達は目を輝かせて喜び、微笑ましいスタートとなりました。保護者の方も一緒に参加してください、ゆったりとした優美な動きのお姫様の踊りと、荒々しい動きの鬼の踊りの2つの踊りを体全体で表現していました。ローフィットさんと佐々木さん、当館職員、ボランティアによるガムランの伴奏に合わせて、髪飾りや耳飾りといった小物と衣装を身に纏い、覚えた2つの踊りを凛とした表情で披露していたのがとても印象的でした。

楽しみながらインドネシアの優雅な伝統芸能と文化に触れることができ、充実した時間となりました。



ふじのくに子ども芸術大学
「インドネシアの伝統芸能体験～影絵・ガムラン・宮廷舞踊～」
日 時：平成30年10月14日(日) 10:00～16:30
会 場：アクトシティ浜松 音楽工房ホール
講 師：インドネシア伝統芸能団ハナジョス(ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実)、西岡美緒
参加者：小学生のべ33人

城北図書館連携企画 「音楽のまち講座」



『スーホの白い馬』の馬頭琴って、どんな楽器？
日 時：平成30年8月5日(日) 10:00～12:00
会 場：城北図書館 講座室
講 師：福井則之
参加者：小学生39人



「歴史を飾った素敵なピアノたち」
日 時：平成30年10月28日(日) 10:00～12:00
会 場：城北図書館 講座室
講 師：嶋和彦(当館館長)
参加者：20人

浜松市立城北図書館との連携企画で、小学生対象の講座を行いました。この企画は平成28年度から始まったものです。

8月5日(日)の講座はモンゴル民話を基にした物語「スーホの白い馬」が題材でした。この題材は企画開始時から好評を得ており、3年連続で夏に開催しています。絵本「スーホの白い馬」の読み聞かせと、馬頭琴奏者の福井則之さんによる演奏と講話、最後には子ども達一人ひとりが馬頭琴の演奏体験をするという盛りだくさんの内容です。

福井さんは、馬頭琴の演奏とあわせて、ホーミーというモンゴルの喉歌も披露してくださいました。ホーミーは2つの声を同時に出す歌唱法で、話し声とは全く違う不思議な声が子ども達に大人気でした。

また、福井さんは体験用にモンゴルの伝統衣装も持ってきてくださいました。色鮮やかで素敵な装飾がなされた衣装に目をキラキラさせている子ども達の姿が印象的でした。全身でモンゴルの世界を堪能できる、充実した講座でした。

10月28日(日)は「歴史を飾った素敵なピアノたち」と題し、ピアノの誕生から20世紀頃までのピアノの変遷を追う講座を行いました。講師は当館館長嶋和彦です。

ピアノが考え出されたのは今から320年ほど前のイタリアです。「ピアノ」という名前を聞いたときには黒いピアノを思い浮かべる人が多いと思いますが、誕生した当初の姿は違いました。初期のピアノは現代のものより鍵盤数も少なく50鍵前後ですし、ペダルの種類や作りも様々なものがあり、中には現代に残っていないものもあります。外観も、木目を大切にしたりしたものや、美しい装飾があるものもあります。また、現代のピアノの方が大きな音が出せる頑丈なつくりになっています。今と昔では楽器を所持する人や演奏される環境も違うので、求められるものも違いました。ただ、「古いピアノが進化して新しいピアノができた」というものではありません。どの時代のピアノも素晴らしく、様々なピアノを楽しめる現代の私たちは、幸福なのかもしれません。

学芸員実習 ～今後の博物館を担う人材の育成～

将来の学芸員を目指し、資格取得のために大学で勉強に励む学生を対象に、8月20日(月)から25日(土)まで、学芸員実習を行いました。今年、4大学4名の実習生を受け入れました。学芸員とは、博物館の管理・運営を行っていくために必要な知識を持って業務を行う専門職です。実習は、大学で学んだことを活かしながら現場を経験することで、学芸員として必要な知識と技術の基本を修得することを目的としています。今回の実習では、博物館の事業に関連する講座の時間を設けながら、展示やワークシートの制作、また、ギャラリートークにミュージアムサロン実習も行いました。知識を得るための勉強、情報の選別、発表のための組立・制作などのスケジュールが大変な盛りだくさんの内容でしたが、みんな懸命ながらも楽しそうに実習を行ってくれました。

実習で触れることができる博物館の仕事はごく一部ではありますが、膨大な作業を笑顔でこなしてくれた、今後の博物館を担う学生たちに期待しています。



平成30年度学芸員実習
日 程：平成30年8月20日(月)～25日(土)
受入人数：4人

講座・楽器の中の聖と俗「奥美濃に残る武将の舞い」

第75回「楽器の中の聖と俗」は、大阪音楽大学名誉教授で当館名誉館長である西岡信雄先生を講師にお招きし、「奥美濃に残る武将の舞い～嘉喜踊り／谷汲踊り～」と題してお話いただきました。

岐阜の二つの祭礼を例に、西岡先生が調査のため現地で撮影された貴重な動画を映しながら、祭礼次第より歴史的なルーツを検証したり、現状における問題点の指摘など、大変興味深いお話をお聞かせくださいました。

郡上市白鳥町中津屋地区の嘉喜踊り（かきおどり）は、地区の高齢化や過疎化が進んだために維持が難しくなり、現在では数年に一度しか開催されないそうです。

一方で揖斐郡揖斐川町（いびがわちょう）の谷汲踊りは、運営形態の近代化、そしてその派手な外見から観光化をも成功させているものの、祭りが本来持っていた「豊作祈願」などの意味合いが薄れつつあるそうです。

現代社会の中で、自力で祭礼を存続させるには、先生曰く「宗教から切り離すことが大切」とのこと、伝統文化の存続の難しさを実感するとともに、その意義を改めて考えさせられる講座となりました。

なお、9月30日に予定されていた第76回「朝拝御規式」は、台風のため2019年3月2日（土）に延期となりました。

講座・楽器の中の聖と俗「奥美濃に残る武将の舞い～嘉喜踊り／谷汲踊り～」
日 時：平成30年9月23日（日）13:30～15:00
会 場：研修交流センター 401 研修交流室
講 師：西岡信雄（大阪音楽大学名誉教授・当館名誉館長）
受講者：18人



友の会コンサート「19世紀のバリトン・サクソフォーン」



10月20日（土）の夜に、楽器博物館友の会コンサートがありました。このコンサートは友の会会員の方々を対象として毎年行っているもので、今年はサクソフォーン奏者で大阪音楽大学特任准教授の飯守伸二さんと、ピアニストの寄藤佳織さんをお招きしました。

サクソフォーンは、ベルギーの楽器製作者であるアドルフ・サククスによって発明された楽器で、当館にはサククス自身が製作したサクソフォーンの展示があります。今回のコンサートでは、所蔵のバリトン・サクソフォーン（サククス作、1860年、パリ）と現代のバリトン・サクソフォーン（柳澤作、2006年、東京）が使用され、サティ作曲「ジュ・トゥ・ヴ（お前が欲しい）」、フォーレ作曲「夢のあとに」など8曲が演奏されました。演奏された曲のうち、サン＝サーンス作曲の「動物の謝肉祭よりく白鳥」では、元祖サクソフォーンと現代サクソフォーンの両方で演奏していただき、それぞれの音色の違いを聴き比べることができる、大変貴重なひとときとなりました。

なお、友の会では来年2月にも演奏会と交流会を行う予定です。その他にも多数の特典がありますので、ご興味ありましたら友の会事務局（楽器博物館内）までお問い合わせください。

楽器博物館友の会コンサート
「19世紀のバリトン・サクソフォーン」
日 時：平成30年10月20日（土）18:15～19:15
場 所：楽器博物館 天空ホール
出 演：飯守伸二（バリトン・サクソフォーン）、寄藤佳織（ピアノ）
入場者：80人

親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」

10月28日（日）に親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」を開催しました。このワークショップは静岡市美術館から学芸員の安岡真理さん、太田紗世さんを講師にお招きし、色とりどりの羊毛フェルト（毛糸）を使って、親子で楽器の絵を完成させるというものです。

ワークショップでは、最初に安岡さんより、羊毛という素材や歴史についてお話いただきました。羊毛の表面はウロコ状になっていて、その表面同士が絡まって固まったものがフェルトとなります。その強度は高く、正倉院には千年以上も前のフェルトの敷物が伝わっているそうです。また、学校などでもよく使うフェルトペンも羊毛から作られているのを知り、子どもたちも驚いていました。次に当館館長嶋和彦より、楽器の解説がありました。今回もさまざまな国や地域の楽器が会場に並べられ、館長のお話や楽器の音色からイメージを膨らませた後、子どもたちがそれぞれ絵にしたい楽器を選びました。国語の教科書に掲載されているモンゴルのお話「スーホの白い馬」に登場する「馬頭琴」はもちろん、今回は南米の楽器「アルパ（ハープ）」も人気でした。他にも、ヴァイオリンやトランペット、アフリカの親指ピアノなどが選ばれていました。そして楽器別に席替えをして、同じ楽器を選んだ人同士で楽器を囲み、作業スタートです。

まずは楽器をよく観察してスケッチを仕上げます。このとき、作品の構図も考えつつ進めていきます。次に下地となるフェルトシートと、楽器のイメージに合う色の羊毛フェルト一色を選び、羊毛フェルトを専用の針で刺して下地に留めてアウトラインを作成します。そして大体の形が決まったところで、いよいよ細部を形作っていきます。子どもたちが、自分のスケッチや目の前の楽器の観察を基に、羊毛フェルトの色選びとレイアウトを決め、親がそれを針で刺し固定させていくという、親子での分担作業が進められていきます。



高学年の子ども達には、自分で針を刺す作業もやってもらいました。時間いっぱいまで、みんな集中して取り組んでくれました。最初は楽器に忠実に仕上げていた子どもも、安岡さんや太田さんのアドバイスを受けながらだんだん自由な色使いとなっていき、思い思いのカラフルな作品が仕上がりました。同じ楽器をモチーフにしても、作った子それぞれの個性の表れた作品が生まれ、大人たちもその出来栄に感心していました。

完成した作品を額縁に入れ、それぞれの工夫した部分やこだわった部分などを本人から説明してもらい発表会も盛り上がりしました。最後の記念撮影では、みんな自分の作品を満足そうに見せてくれました。

親子ワークショップ
「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」
日 時：平成30年10月28日（日）13:30～16:30
講 師：安岡真理（静岡市美術館学芸員）、太田紗世（静岡市美術館学芸員）
参加者：親子11組



新企画 「館長対談～この人に聴く～」



「ガーン!と仰天、浜松まつりのラップ」
日 時：平成30年8月4日(土)
ゲスト：奥中康人(静岡文化芸術大学芸術文化学科教授)
入場者：120人



「バリから学ぶ芸能の未来」

日 時：平成30年8月8日(水)
ゲスト：梅田英春(静岡文化芸術大学芸術文化学科教授)
入場者：35人

「人生はテルミンとともに」

日 時：平成30年8月11日(土)
ゲスト：竹内正実(テルミン演奏家)
入場者：143人

「ムビラに魅せられて」

日 時：平成30年8月26日(日)
ゲスト：スミ・マズィタテグ(ムビラ演奏家)
演奏：ガリカイ・ティリコティ
入場者：75人

「人をつなぐデザインの力」

日 時：平成30年11月17日(土)
ゲスト：峯郁郎(静岡文化芸術大学芸術文化学科教授・文化芸術研究センター長)
入場者：21人

今年度の新企画「館長対談～この人に聴く～」全6回のうち5回が終了しました。この企画は、浜松市内外で活躍する様々な分野の研究者や演奏家をお招きし、前半30分ほど講演をしていただいた後、後半30分は講演の内容や、それにまつわるお話を館長が対談形式で伺い、また聴衆からも質問をしていただくというものです。

第1回は8月4日(土)午後2時から静岡文化芸術大学教授の奥中康人さんで「ガーン!と仰天、浜松まつりのラップ」。毎年5月3日～5日の3日間開催される「浜松まつり」は「大風揚げ」と「御殿屋台引き回し」が見どころですが、それに欠かせないのが町民の吹くラップ。西洋のラップを土地の祭りに取り入れて日本化したしまった浜松人のしたたかさは見事なもの、という興味深いお話でした。

第2回8日(水)も同大学教授の梅田英春さんで「バリから学ぶ芸能の未来」。ガムランに代表される伝統芸能や芸術を、その根本的哲学を変えることなく、国内外への観光の資源にしてしまったインドネシア共和国バリ島の例をお話していただきました。博物館所蔵の文化財を観光に生かすべきでは、という議論が今日本で盛んですが、参考になるお話でした。

第3回11日(土)は電子楽器テルミンの日本での演奏教育普及のパイオニアである竹内正実さん。1929年にロシアで生まれた世界初の実用的電子楽器テルミンの

日本での普及の歴史は、まさに不可能を可能にする挑戦の歴史であった、と感動的なお話を伺いました。対談後は、お弟子さんの指導によるテルミン体験タイムを入館者は楽しみました。

第4回26日(日)はアフリカ、ジンバブエのショナ族の伝統楽器ムビラの精神と歴史について、ムビラ演奏家のスミ・マズィタテグさんにお話を伺いました。若い頃の世界一人旅の途中でのムビラとの運命的な出会い、イギリス支配から独立へのショナ民族の歴史とムビラについて、熱く語っていただきました。対談後は、ジンバブエから来日中のムビラの名演奏家ガリカイ・ティリコティさんとともにムビラの演奏をしていただきました。

第5回11月17日(土)は静岡文化芸術大学教授の峯郁郎さんで「人をつなぐデザインの力」。デザインとは単なる作品ではなく、人と人、人とモノ、モノとコトをつなぐものであることを、楽器をはじめ様々な例でお話していただきました。



テルミン体験



ムビラ演奏

ミュージアムサロン「森と湖の歌声～リトアニアの女声合唱～」

夏休み後半の8月20日(月)に、“ベニ・ガウデーレ”による女声合唱の演奏を楽しみました。

“ベニ・ガウデーレ”とは、リトアニア共和国の名門ヴィリニウス大学カウナス校の女子学生からなる合唱団で、合唱が盛んなリトアニアの中でも際立って美しいハーモニーの大学合唱団として認められています。来日は「日本・リトアニア親善合唱交流演奏会2018」への出演のため、今回はツアーの合間を縫って、当館でも演奏していただきました。

コンサートではアカペラを中心としてリトアニアの民族音楽を楽しみました。十数名の澄んだ歌声からなるハーモニーは神秘的な響きで、不思議と森や湖のような壮麗さを感じました。また、会場を囲み、客席間近での合唱も披露していただき、文字通り音楽に包まれているような時間を過ごしました。客席に座ってご覧になられた方は、特別な体験ができたのではないのでしょうか。美しいハーモニーに心が洗われる、贅沢な時間でした。



ミュージアムサロン「森と湖の歌声～リトアニアの女声合唱～」
日 時：平成30年8月20日(月) 13:30～14:00
会 場：楽器博物館 天空ホール
出 演：女声合唱団 “ベニ・ガウデーレ”
入場者：139人

ミュージアムサロン「南米の楽器 “アルパ”」



ミュージアムサロン「南米の楽器 “アルパ”」
日 時：平成30年10月13日(土) 14:00、15:30
場 所：楽器博物館 天空ホール
出 演：長島忠之(アルパ)、パブロ・テロネス(ギター&チャランゴ)、田中淳子(パンフルート)、杉山由利子(電子ピアノ)、桜井壮憲(ギター)
入場者：114人

10月13日(土)に長島忠之さん、パブロ・テロネスさん、田中淳子さん、杉山由利子さん、桜井壮憲さんをお招きし、南米の楽器「アルパ」のミニコンサートを開催しました。

「アルパ」はスペイン語で「ハーブ」の意味です。西洋のハーブとは大きさや形状、音色が異なります。コンサートでは、同じくラテンアメリカの小型の弦楽器「チャランゴ」、大型のギター「ギタロン」、打楽器の「カホン」、縦笛の「ケーナ」なども加わって演奏されました。ベネズエラの「コーヒー・ルンバ」や滝の流れるさまを表した「カスカダ」といった定番曲や、テロネスさんによる歌入りの「インディア」など、さまざまな音楽をアルパの明るく透明感のある響きとともに堪能しました。後半には、電子ピアノやルーマニアの楽器「パンフルート」も登場し、南米の曲を異なる地域の楽器も使用しながら演奏されましたが、それぞれの音色が溶け合っていて、楽曲の魅力を改めて味わうことができました。

音楽の広場「フルートとピアノ」

10月21日(日)は、フルート奏者の小池真梨さんと、ハンガリーでピアニストとして活躍している向田成人さんによる演奏を楽しみました。

曲は、デュオによるシャミナード作曲「秋」や、ピアノソロでショパン作曲のポロネーズ「英雄」などを演奏していただきました。他にも、浜松出身作曲家の楽曲も楽しみました。

また、コンサートの途中、向田さんが「今のぼくの気持ちで、演奏します」と、プログラムにはなかった選曲でショパンの「ノクターン」を弾いてくださったり、15:30からの回では即興演奏もしていただきました。即興演奏の曲は、1曲の中にいくつか聞き馴染みのあるメロディーが盛り込まれていて、お客様はわくわくしながら聴いていました。

また、コンサート終了後にはお客様から出演者に直接質問される姿も見られたりと、終演後も充実した時間となりました。



音楽の広場「フルートとピアノ」
日 時：平成30年10月21日(日) 14:00、15:30(各30分)
会 場：楽器博物館 地下展示室
出 演：小池真梨(フルート)、向田成人(ピアノ)
入場者：105人